

2015年1月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度を見ると、極うずは中央シベリアとカナダ北部に位置した。東アジア、東シベリアから北米西部にかけては正偏差、グリーンランドから南西部を除くヨーロッパは負偏差となった。亜熱帯ジェット気流は太平洋中部で平年より強かった。シベリア高気圧は平年より弱かった。アリューシャン低気圧は平年の位置の南東側では強かったが、ベーリング海付近では弱かった。

熱帯の対流活動は、南インド洋西・中部、インドネシアから太平洋西部、北太平洋東部で活発、インド洋赤道域、太平洋中部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬にインドネシア付近から太平洋西部を、中旬に太平洋東部から南米付近を東進した。下旬は不明瞭だった。対流圏下層の赤道域では、月の前半は太平洋西部で、月の後半は太平洋中部で西風偏差が明瞭だった。対流圏上層では、中東、中国から日本付近で高気圧性循環偏差となった。南方振動指数は -0.6 だった。

世界の天候

2015年1月の世界の月平均気温偏差は $+0.29^{\circ}\text{C}$ （速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。1月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約 $0.74^{\circ}\text{C}/100$ 年（速報値）である。

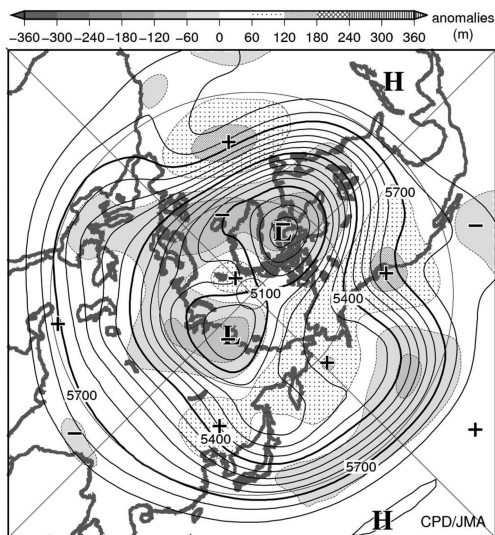
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 中央シベリア南部～中国東部では異常高温となった。
- 米国南西部～メキシコ西岸では異常高温となった。
- ブラジル東部では異常高温・異常少雨となった。

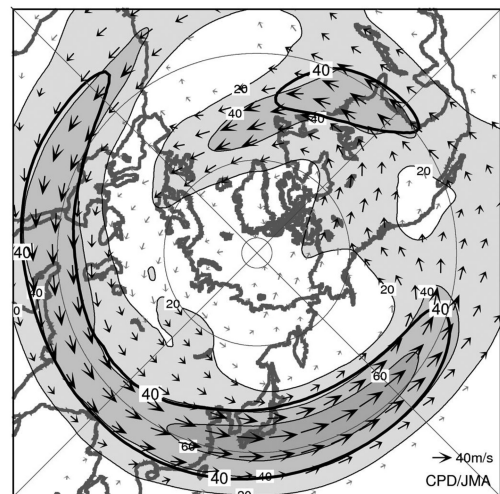
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

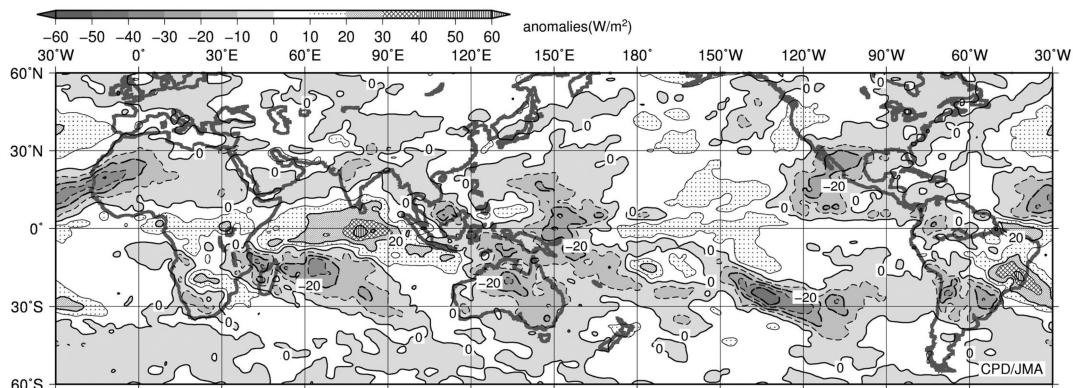
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2015年1月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

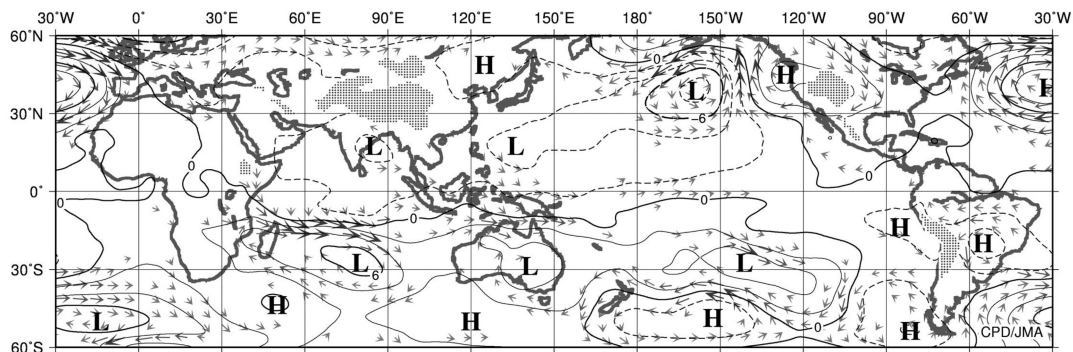


2015年1月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年の平均値。



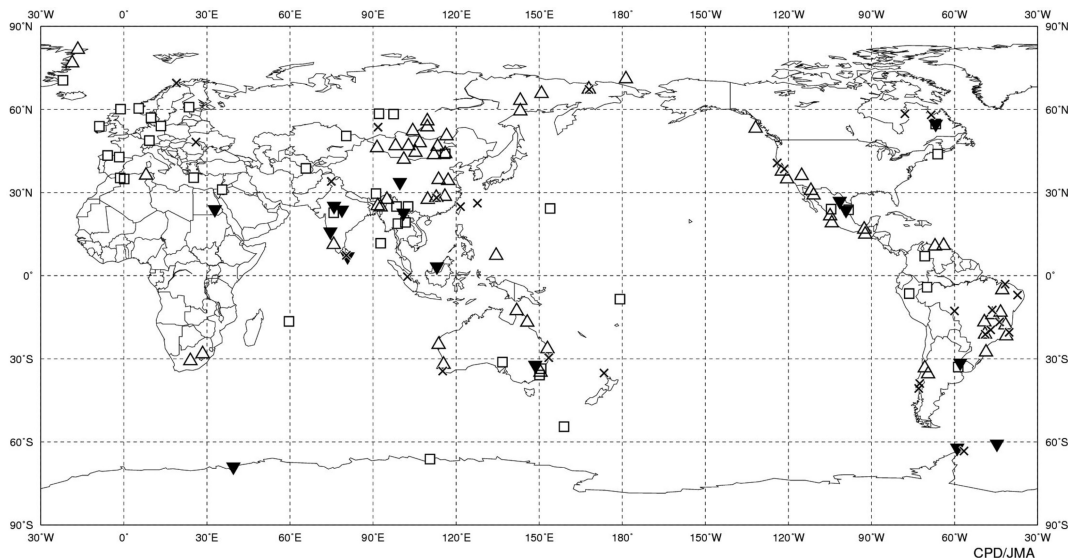
2015年1月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年1月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年1月の世界の異常天候分布図

△異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨

異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。